

# 名古屋城木造復元天守バリアフリー対策検討会議

## 【第1回議事録（要旨）】

平成29年12月28日(木)  
8時30分～8時55分  
堀場副市長応接室

健福局長：今まで外部に言ってきたことと変わるため、方針決定に加わる自信がない。

健福局長：障害者差別解消法の施行により、障害者との折り合いをどうつけるのか・・・  
方向性が見えないと方針を出しにくい。

観文局長：方針が適正かどうか、各局の意見を聞きながら進めていきたい。

健福局長：上手いこと折り合いがつくかどうか心配である。

堀場議長：障害者の大半の願いを、どこまで折り合いをつけるのかのコントロールが大事である。

観文局長：天守だけでなく、天守までのアクセスも考えていく必要がある。

交通局長：アクセスをきっちりやることは必要であると思っているが、一定の方向性を達成させるためには、どこが最終決定となるのか。こういう方向性で進めるためには、各局はどのような対応が可能かという議論が必要である。自分たちがどこまで決めれば良いのかが不明である。

堀場議長：市として、バリアフリーの考え方をどのように持っているのかを問われることとなる。各局の考え方や取り組みが基準となるが、すべての方向性を決めることは難しいと考える。これから、各局が取り組んでいるバリアフリーの考え方を聞いていく。

堀場議長：文化庁、技術者、障害者、高齢者等からの意見を並べて、各局がどう思うかを議論してもらいたい。また、幅広い意見を聞くことも必要である。

教育長：子どもたちがどれだけ名古屋城へ行っているのか。史実に忠実に復元しても、上るのに時間がかかるが、例えばVR技術等で体感できることが大切であり、ソフト対策で観覧環境を整備することも必要である。

堀場議長：ワーキングチームで過程を整理し、まとめていく。

名古屋城木造復元天守バリアフリー対策検討会議 第2回  
議事録メモ

平成30年2月28日(木) 16:00~16:45  
名古屋市役所本庁舎 堀場副市長応接室

【出席者】

堀場副市長、廣澤副市長、市民経済局産業部参事（産業技術支援）、  
健康福祉局長、子ども青少年局長、緑政土木局長、教育長、交通局長、  
観光文化交流局長

【議事録メモ】

	発言局	内容
1	交通局	名古屋城木造復元天守は、姫路城と同じレベルを求めているのか。
	観光文化交流局	基本的には「史実に忠実な復元」をすることであり、その上で、バリアフリー対策として何を付加するかを検討している。
2	交通局	木造復元が、何を最優先にしているのかよくわからない。
	堀場副市長	市長は「史実に忠実な復元」をすることを大前提と考えているが、障害のある方や高齢者も含めた様々な人にとって、木造復元天守に上ることは大切である。また、文化庁は、事務局だけでなく、有識者の意見をしっかり聞いて議論すべき、との意見を述べている。
	観光文化交流局	国宝や世界遺産でもエレベーターが設置されている事例もある。
3	交通局	障害者団体以外の人からも、「バリアフリーは必要である」という意見が出ていたのか。
	観光文化交流局	「史実に忠実な復元」の線引きがどこまでなのかを判断するのは難しい。例えば、昇降の補助具としては、階段の手すりはどの城郭にも設置されているが、エレベーターは現存12天守（国宝）には設置されていない。
	交通局	市民の中には、木造復元に賛成し寸分違わぬ復元を望んでいる人たちもいると思うので、そういった方の意見も聞く必要があると思う。
4	堀場副市長	内部エレベーターの11人乗りについては、どの階に到達したとしても、柱や大梁を大幅に切断し、鉄骨などにより建物を補強する必要がある。
5	健康福祉局	障害者団体に対して、バリアフリーについて検討会議でどのような議論が行われたのか、しっかり説明をして、意見を聞くことは大切である。

名古屋城木造復元天守バリアフリー対策検討会議 第2回  
議事録メモ

	発言局	内容
6	教育委員会	市長が、エレベーターの設置の有無について決断をするのはいつか。
	観光文化交流局	市長には、検討会議やワーキングの状況など適宜報告をしているので、今後も同じように対応していく。しかし、天守閣部会等の調整が長引く可能性もあるため、現時点では決まっていない。
7	交通局	新たな技術を推進するのであれば、VR技術に力を入れるべきではないか。
	観光文化交流局	VR技術のみの場合、木造復元天守に上れないことになる。
8	交通局	2万人の市民アンケートの意見でも、市民の6割が木造復元に賛成という意見であったが、障害者団体等の一部の人だけでなく、市民のいろんなカテゴリーの方に聞くべきことが必要であると思う。
	堀場副市長	意見の聞き取りは、偏らないようにするべきである。
9	教育委員会	「木造復元天守は、障害者や高齢者、子どもにも、ここまでしか上れない。」と、きちんと説明すべきである。
	子ども青少年局	今後も障害者団体や有識者から聞き取り等を行うと思うが、聞き取った意見を集約し、その確認や議論する予定はあるのか。
	観光文化交流局	次回のワーキングで提示する予定。
10	交通局	木造復元事業は、当初想定したものと異なることが今後あるのか。また、ロードマップ的なものはあるのか。
	堀場副市長	木造復元事業は、国内では最大規模の木造建築事業であり、過去には事例がない。
	観光文化交流局	木造復元事業は、現時点では国（文化庁）から正式に認められていない。 また、他城郭でも同じケースがないので、個別に聞いても答えてもらえない。
11	緑政土木局	竹中工務店が提案をしている内部のエレベーターの4人乗りの4階までは、問題はあるのか。
	廣澤副市長	技術的に4人乗りのエレベーターを付加できたとしても、避難対策の問題が生じてしまう。
12	観光文化交流局	参考までに、外付けのエレベーターから天守閣へ入場者した車いす利用者は1ヶ月で100人程度。（全体の1%以下。）天守閣内のエレベーターは、車いす利用者だけでなく、健常者の方も使用している。

名古屋城木造復元天守バリアフリー対策検討会議 第2回  
議事録メモ

	発言局	内容
13	交通局	文化庁から、名古屋市の方針について認められない意見が出た場合はどうなるのか。
	観光文化交流局	その部分について訂正を行った場合、その後認められることもある。実際に、本丸御殿復元事業についても同じようなことが行われていた。
14	堀場副市長	いろんな方面の人からの意見を集約し、検討会議等で議論して、方針をまとめていく。